

床置形据付説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。リモコン及び電気工事の方法は、裏面の電気配線工事説明書をご覧ください。室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、暖まらない	
断熱は完全にしていますか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない、暖まらない	

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は **△注意**、**△注意** に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に **△警告** の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意** の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いづれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「固記号」の意味は右のとおりです。 **○** 絶対に守らねばならない **●** 必ず指示に従う
- 据付工事後は、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にて、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等)をお客様にご指導ください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しした上でよく説明してください。

△ 警告

- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 据付は、電気工事士等の専門業者に依頼する。●自分で据付し、落下によるけが等の原因になります。●据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。●自分で据付し、落下によるけが等の原因になります。
- 据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。●自分で据付し、落下によるけが等の原因になります。
- 据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。

△ 注意

- 空気清浄機、加湿器、除湿機、暖房用電気ヒーターなどの別売品は、必ず指定の製品を使用する。また、換気扇は必ず換気扇を閉め、必ず指定の製品を使用する。●空気清浄機、加湿器、除湿機、暖房用電気ヒーターなどの別売品は、必ず指定の製品を使用する。また、換気扇は必ず換気扇を閉め、必ず指定の製品を使用する。
- 据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。●自分で据付し、落下によるけが等の原因になります。
- 据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。●自分で据付し、落下によるけが等の原因になります。
- 据付に不備があると、冷媒や電線、室外ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 冷媒の取り扱いには十分な注意を払う。冷媒が漏れたら、冷媒補給を要する。冷媒補給の際には、必ず冷媒補充機を使用する。冷媒ガスが漏れたら、室内の冷媒濃度が冷媒濃度の0.5%以下になる恐れがある場合は、窒息防止のため、部屋の開口部やガラス製物等に遮蔽物を設置する。●冷媒補充機は必ず安全装置が動作している状態で使用してください。

●冷媒R410A対応機としての注意
●R410A以外の冷媒を使用しないでください。R410Aは従来の冷媒(R22、R407C)に比べ圧力が約1.6倍高くなります。●R410Aは、他の冷媒と比べて色相が異なります。●R410Aは、他の冷媒と比べて色相が異なります。●R410Aは、他の冷媒と比べて色相が異なります。

1 据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
○工事計画にあつておりますか。

① 付属品セット	1セット
② 愛用者書類セット	1セット

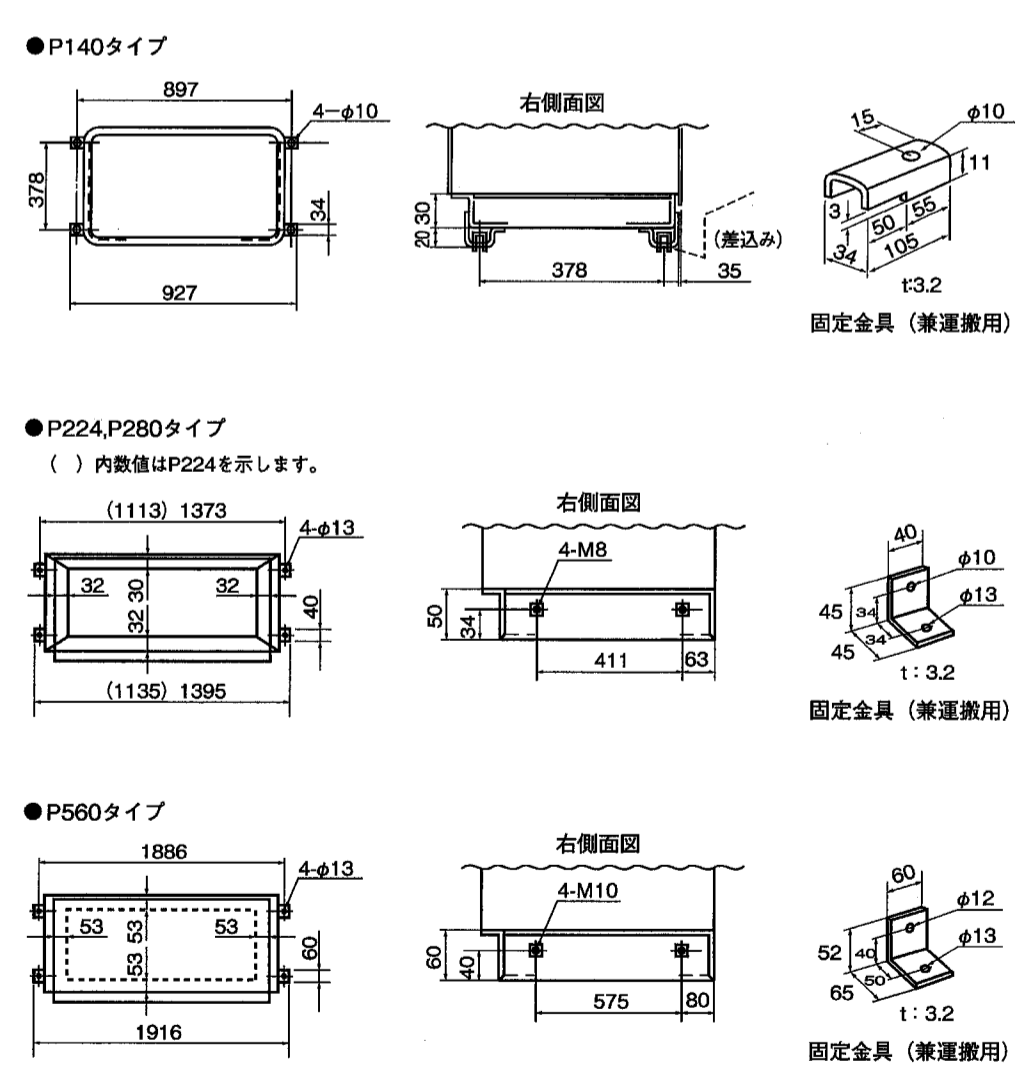
機種・電源仕様
確認してください
付属品
配管・配線・小物部品

2 ユニットの運搬・搬入、開梱

- 搬入の際、45°以上傾けないでください。
- 搬入の際、ワイヤーロープで吊り上げる場合は本ユニットの質量にあった太さを選び木枠下面にかけてください。
- 開梱はまず前面を取り外します。次に下面との結合を外します。後面・側面は一体のまま後方へ取り外します。
- 梱包材はきちんと処置してください。(子供が遊ぶと危険です。)

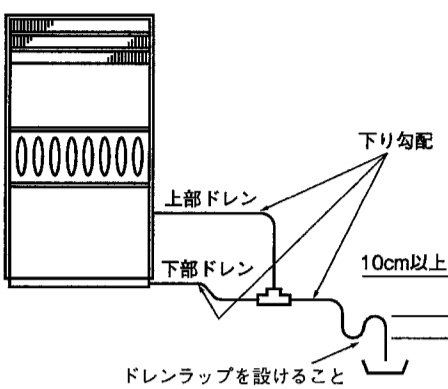
3 据付場所の選定

- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分に行きわたる所。
 - 据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - 浸入外気の影響のない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
 - 本ユニットはJIS腐付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。
 - テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
- 据付作業を行う際の注意事項
 - ユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
 - 床が共鳴するおそれはないですか。必要に応じ補強・防振等を行ってください。
- 点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
 - サービススペースとして前面側を1m以上あけてください。
 - 電機ヒータを組み込む場合は、「電気を熱源とする温風暖房機の設置に関する運用基準」により、下記のスペースが必要です。
 - 前面60cm以上 ●吹出口前面1m以上(除くループ)
 - 上面10cm以上 ●背面、側面5cm以上



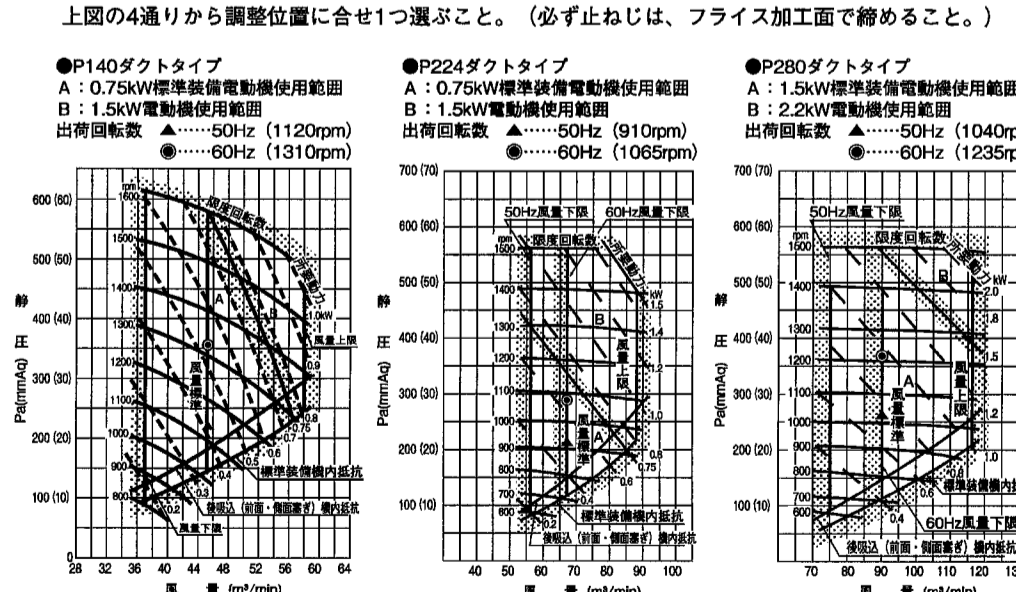
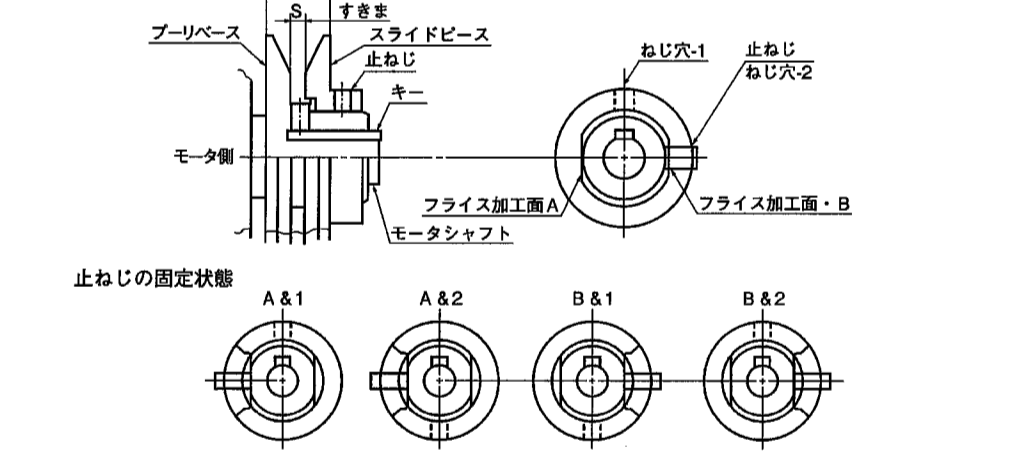
4 配管工事

- (冷媒配管)
配管の取出し位置については、**回**項を御覧ください。冷媒配管は室外ユニットの据付説明書を見て施工してください。(ドレン配管)
○配管施工後、排水が良好に行われていること、水漏れのないことをご確認ください。
- 室内およびユニット内にあるドレン配管は必ず保温してください。
 - 配管工事に不備があると、水漏れし家財等を濡らす原因になります。
 - ドレン配管を接続する際にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
 - ドレン配管は下り勾配 (1/50~1/100) とし、10cm以上の水封がつくれるトラップを設けてください。(臭気止め、逆流防止の為。)
 - ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- △警告
●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。



5 ダクト工事

- 直吹きタイプ
 - 送風機切換コネクタ(上部前面カバーの内側にある)を、高速にすることにより機外静圧50Pa(5mmAq)程度がとれます。
 - ダクトは天板をはずして送風機台へ直接取り付け付けてください。
 - 面吹き(一部ダクト吹き)の場合は天板打出し部を穴明けしダクトをつないでください。
- ダクトタイプ
 - ダクト設計に基づき(機外静圧をこえないよう)施工してください。
 - ユニットとダクト、ダクトのサポート等は必要に応じて防振キャンパス、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。
- 回転数を変更する場合は次の手順に従い実施してください。(P140,P224,P280:可変ブリー仕様の場合)
 - ピッチ径はブリーベースとスライドピースのブリー市(L)を変えることにより調整できます。
 - スライドピースの止めをフリーにして、ブリー市(L)=18mm(すきま:S=0mm)の状態から1/4回転単位で回転させブリー市(L)を広げて行き所定の位置にします。
 - スライドピースの止め2ヶ所の内どちらか必ずブリーベースのフライス加工面(2ヶ所の内どちらか)と合うようにセットし止め(必要に応じ移動)を締め付けてください。(締付トルク12.5N・m(125kg・cm))
 - 最後にファンブリー、モーターブリーのV溝のセンタ合わせは、ファンブリー側で行ってください。尚、調整後、止めは確実に締付けてください。[締付トルク12.5N・m(125kg・cm)]

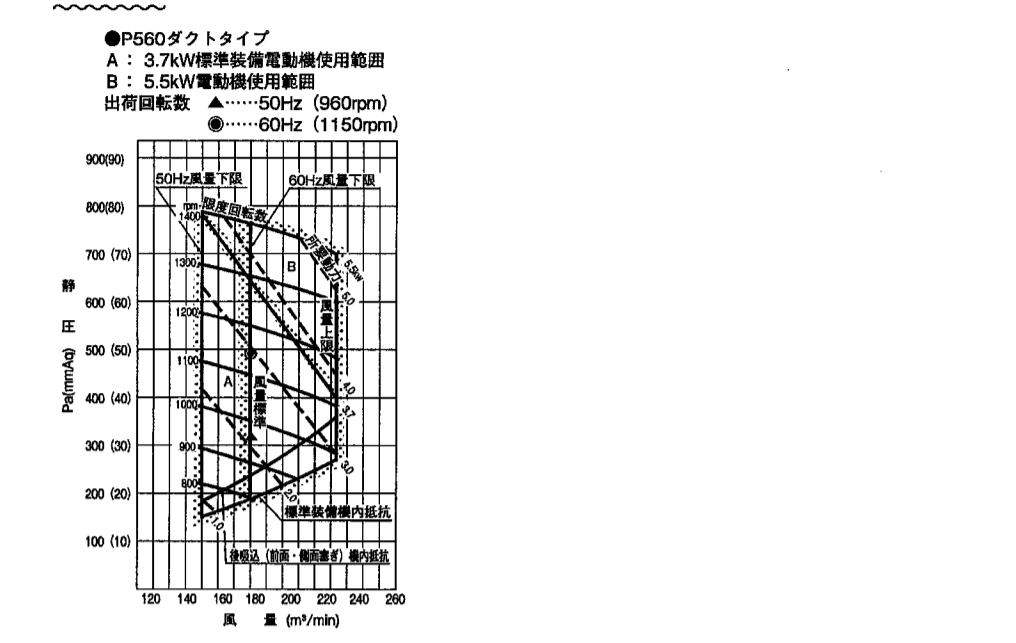


可変ブリーによる送風機回転数調整範囲

形式	スライドピースの回転数	寸法																							
		ブリー市(L)	18.0	18.4	18.8	19.1	19.5	19.9	20.3	20.6	21.0	21.4	21.8	22.1	22.5	22.9	23.3	23.6	24.0	24.4	24.8	25.1			
P140	送風機	50Hz	1250	1235	1220	1205	1185	1170	1155	1135	1120	1105	1090	1075	1055	1040	1025	1005	990	970	955	940			
		60Hz	1465	1445	1425	1405	1385	1365	1345	1330	1310	1290	1270	1250	1235	1215	1195	1175	1155	1135	1115	1100			
P224	送風機	50Hz	910	900	890	880	865	855	845	835	825	815	800	790	780	770	760	750	740	725	715	705			
		60Hz	1065	1050	1035	1025	1010	1000	985	975	960	950	935	925	910	900	885	875	860	850	835	825			
P280	送風機	50Hz	1040	1030	1020	1010	1000	990	980	965	955	945	935	925	910	900	890	880	870	860	850	835			
		60Hz	1235	1220	1210	1195	1185	1170	1160	1145	1135	1120	1105	1095	1080	1070	1055	1045	1030	1015	1005	990			

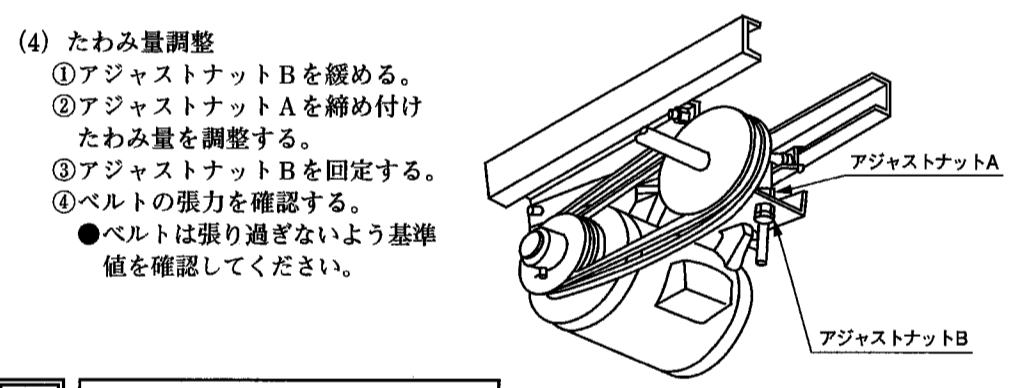
6 PAA012D011

4. P560タイプのファン回転数を変更する場合はモーターブリーの交換により実施してください。



5. ファンベルト張力の調整方法(ダクトタイプの場合)

- ファン回転数を調整した時、下記の方法でファンベルト張力を調整してください。
- ベルトが正しく取り付けられていることを確認する。
 - ファンブリーとモーターブリーの中心は合っていますか。
 - 鳴きやすけりがある場合はベルトのブリー接触面の磨耗・損傷・破損およびブリーの傷付きを点検する。
 - Vベルト1本当りの張力(張り具合)はたわみ量Lの値を①式にて計算し、その時のたわみ荷重が下表①の範囲内になるようにセットしてください。



6 配管・配線取り出し

1. 配管、配線の取出しは下図に示す位置より行ってください。

番号	名称	寸法			
		P140タイプ	P224タイプ	P280タイプ	P560タイプ
①	冷媒配管接続口(液配管径)	φ9.52(フレア接続)	φ9.52(3/8寸付)	φ9.52(3/8寸付)	φ12.7(3/8寸付)
②	冷媒配管接続口(ガス配管径)	φ15.88(フレア接続)	φ19.05(3/4寸付)	φ22.22(3/4寸付)	φ28.58(3/4寸付)
③	上部排水口	25A	25A	25A	25A
④	下部排水口	20A	20A	20A	20A
⑤	電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30	φ50
⑥	予備電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30	-

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
- 室内ユニット間の配線は、端子ケーブルが浮き上がらないように整形し、ケーブルを確実に取り付ける。ケーブルの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセントにもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根本まで確実に差し込む。ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 空気清浄機、加湿器、暖房用ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取り付けは専門業者に依頼する。自分で取り付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 修理は絶対にしないでください。また、修理をお買い上げの販売店に相談する。
- 修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内線の修理・点検作業に際して「室内機電源ブレーカー」を必ず落とす。
- 点検・修理にあたって、室内機電源ブレーカーがONのままだと、感電および室内機ファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
- 感電、故障や動作不良の原因になります。

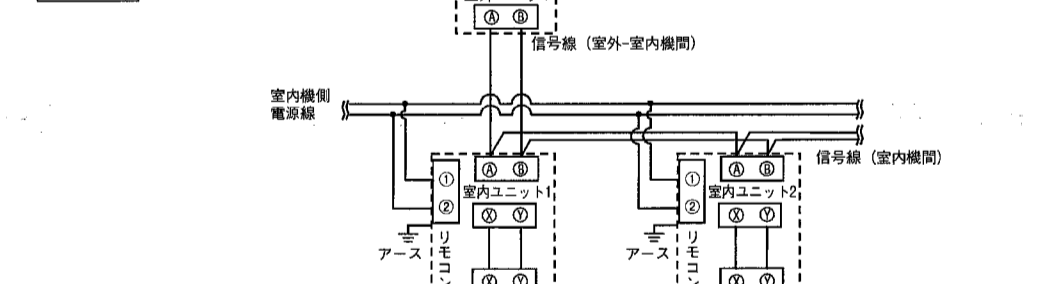
注意

- アース(接地)を確認を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、発熱や漏電のとき感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器(高感度対応品)を取付ける。漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・開閉器・B種ヒューズ)・配線遮断器を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外には使用しない。
- 防火や耐熱に使用し、故障や火災の原因になります。
- 配線は、配線用器具に合った規格品の電線を使用する。漏電や発熱・火災等の原因になります。
- 室内外接続用端子盤および電源用端子盤に単線とよ線と併用しない。また、異なるサイズの単線またはよ線を併用しない。
- 端子盤のねじ締めや接続不良が生じ、発熱・発火の原因になります。
- 運転停止後、すぐに電源を切りなさい。必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

1 電源配線接続

- 機器毎に設置された過電流及び漏電遮断器(感度電流30mA)を設置してください。
 - 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合は、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。
 - 0種設置工事を必ず行ってください。
 - 8mmを超える太さの配線は接続不可です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
 - ユニットの外部では、リモコン線と電源配線が直接接触しないように施工してください。
 - 天井裏の配線(電源・リモコン、室内外接続線)はネズミ等により、かじられる可能性があります。なるべく鉄等の材質で覆ってください。
 - リモコン線、信号線用端子台に200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
 - 信号線を途中接続する場合は、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。
 - 配線の接続はねじの締めをいように確実に行ってください。
 - 電源が完了するまで入れないでください。
 - 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
 - 電線は耐燃性のものを使用しないでください。
 - 電線は、室外ユニット・室内ユニット各々別電源としてください。
 - 電気ヒータ(別売品)は含んでいません。
- 注:電気ヒータを組み込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が増えるので、ご注意ください。
- 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになるようにしてください。
 - 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、電線箱の蓋を外し、ユニット間配線用端子台(4P)に番号を合せて接続してください。また、アース線もユニット間配線用端子台のアース端子に接続してください。
 - 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NVC-センサーズ)または、その別売品を使用してください。
 - 漏電遮断器が地絡保護専用用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

配線系統図(室内・室外ユニット接続要領)



室内ユニット合計電流(A)	配線用遮断器定格電流(A)	測定電流(A)	動作時間(sec)	電圧降下(mm ²)	配線長さ(m)	室外・室内配線径(mm ²)	室内・室内配線径(mm ²)
7以下	20	20	0.1以下	2	21	0.75~2.0 x 2本	0.75~2.0 x 2本
11以下	30	30					
16以下	40	40					
18以下	50	50					
22以下	50	100	8	27			

注(1)配線長さ:合計電流値の最大値で記載してあります。
(2)配線長さ:電圧降下を2%とした場合を示しています。上記の配線長さを越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。
(3)室内機接続線は5.5mm²まで使用が可能です。8.0mm²以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内機へ分岐してください。

分流通ローラの場合

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流通ローラ(別売品)に付属の据付説明書をご覧ください。

2 アドレス設定

アドレス設定は、(1)手動アドレス設定、(2)自動アドレス設定、(3)リモコンアドレス変更の3つ設定方法ができます。上記3項目については、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

3 制御の切換

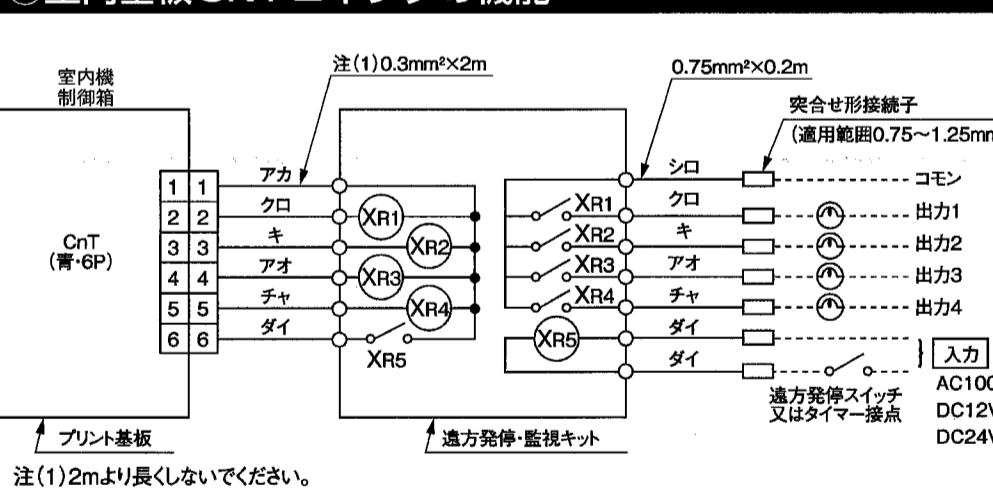
スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(16)
SW3	室内アドレス(10位)
SW4	室外アドレス(16)
SW5-1	ON:送信制御/オフ:自動制御
OFF	送信制御/自動制御
SW5-2	室内アドレス(10位)
SW6-1~4	機種番号

4 機能設定

●リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

機能	初期設定	※:自動判別	機能設定	初期設定	※:自動判別
01 リモコン電源	有効	○	機能設定	有効	○
02 自動運転設定	有効	○	01 冷房昇降設定	設定	○
03 温度設定	室温	○	02 高天井設定	設定	○
04 運転切替	運転切替有効	○	03 16ルーバー制御設定	設定	○
05 運転/停止	運転/停止有効	○	04 ルーバ制御設定	設定	○
06 風量切替	風量切替有効	○	05 外部入力切替	設定	○
07 風向切替	風向切替有効	○	06 運転許可/禁止	無効	○
08 タイマー	タイマー有効	○	07 風量停止	無効	○
09 リモコン予約設定	リモコン予約無効	○	08 冷凍防止制御	有効	○
10 停電記憶設定	停電記憶無効	○	09 暖房室温修正	設定	○
11 換気設定	換気なし	○	10 暖房温度修正	設定	○
12 湿度範囲設定	表示変更有り	○	11 暖房ファン制御	設定	○
13 室内ファン	3速	○	12 Frost防止制御	有効	○
14 ルーバ制御設定	ルーバ4段階停止	○	13 トイレポンプ	無効	○
15 防凍モード	OFF	○	14 冷房ファン運転	有効	○
16 外部入力設定	一台運転	○	15 暖房ファン運転	有効	○
17 室温表示設定	室温表示無効	○	16 暖房ファン無効	無効	○
18 暖房準備表示	表示無し	○	17 外機制御	有効	○

5 室内基板CNTコネクタの機能



コネクタ	モロックス	端子	機能
●XR1~4	DC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)	5264-06	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)
●XR5	DC12V、2.4V又はAC100Vリレー (オムロン製LY2F相当品)	5263T	暖房出力 サーモON出力 (サーモON時XR3=ON) エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)
●CnTコネクタ	(現地側) メーカー、形式		

●機能

出力1 エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)
出力2 暖房出力
出力3 サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)
出力4 エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)

入力5 出荷時 XR5 OFF ⇒ ON エアコンON
現地切換 リモコンにより XR5 ON ⇒ OFF エアコンOFF
外機入力切替を確定 XR5 OFF ⇒ ON のパルス信号により ON/OFF反転

●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

6 試運転

冷房試運転方法
リモコンを次の手順で操作してください。
1. 冷房試運転の開始
① 運転/停止 ボタンを押して、運転します。
② 運転切替 ボタンにより、「冷房」を選択します。
③ 風量切替 ボタンを3秒押しします。表示が、「冷房運転中▼」となります。
④ 「冷房運転中▼」の表示で、「セツト」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」になります。
2. 冷房試運転の解除
下記のいずれかの操作が行われた時、冷房試運転は解除され、「冷房試運転」表示は消滅します。
① 運転/停止 ボタンが押された時。
② 運転設定 ▲ ボタンが押された時。
③ 運転切替 ボタンにより冷房以外のモードに変えた時。

暖房試運転方法
リモコンを次の手順で操作してください。
1. 暖房試運転の開始
① 運転/停止 ボタンを押して、運転します。
② 運転切替 ボタンにより、「暖房」を選択します。
③ 風量切替 ボタンを3秒押しします。表示が、「暖房運転中▼」となります。
④ 「暖房運転中▼」の表示で、「セツト」ボタンを押すと、暖房試運転を開始します。表示は、「暖房試運転」になります。
2. 暖房試運転の解除
下記のいずれかの操作が行われた時、暖房試運転は解除され、「暖房試運転」表示は消滅します。
① 運転/停止 ボタンが押された時。
② 運転設定 ▲ ボタンが押された時。
③ 運転切替 ボタンにより暖房以外のモードに変えた時。

運転データの確認方法
リモコン操作により、運転データの確認ができます。
【操作手順】
1. 運転データを表示します。表示が「運転データ表示▼」になります。
2. 「運転データ表示▼」の表示で、「セツト」ボタンを押します。
3. リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、「データ確認中」表示と「データを読み込む点滅表示」のその後、運転データの01番が表示されます。
4. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレスが表示されます。
【例】室内機選択 ▲ (1秒間点滅) 「内000▲」(点滅) ▲▼ ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
【セツト】により確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。)

番号	データ項目
01	冷房 (運転モード)
02	設定 °C (設定温度)
03	室温 °C (室温)
04	リモコンセンサ °C (リモコンセンサ)
05	TH-R1 °C (室内換気センサ/パネル)
06	TH-R2 °C (室内換気センサ/ファン)
07	TH-R3 °C (室内換気センサ/天井)
08	室内ファン速 (室内ファン運転)
09	暖房 H2 (暖房運転)
10	ファン速 H2 (ファン速)
11	EVEP °C (室内換気センサ)
12	内運転 H (室内運転時間)
21	外気 °C (外気)
22	THO-R1 °C (室外換気センサ)
23	THO-R2 °C (室外換気センサ)
24	コンパ H2 (コンパ)
25	HP MPa (圧)
26	LP MPa (圧)
27	Td °C (吐き出し温度)
28	F-T °C (F-T温度)
29	CT °C (CT電圧)
30	SH制御 (SH制御)
31	SH °C (SH)
32	TDSH (稼働)
33	保護制御No. (コア保護ステータスNo.)
34	ファン速 (室外ファン)
35	GONOFF (GONOFF)
36	アラート (アラート)
37	コンパ H (コンパ)
38	EVEE2 °C (室外換気センサ)
39	EVEE1 °C (室外換気センサ)

●運転データの確認方法は、リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

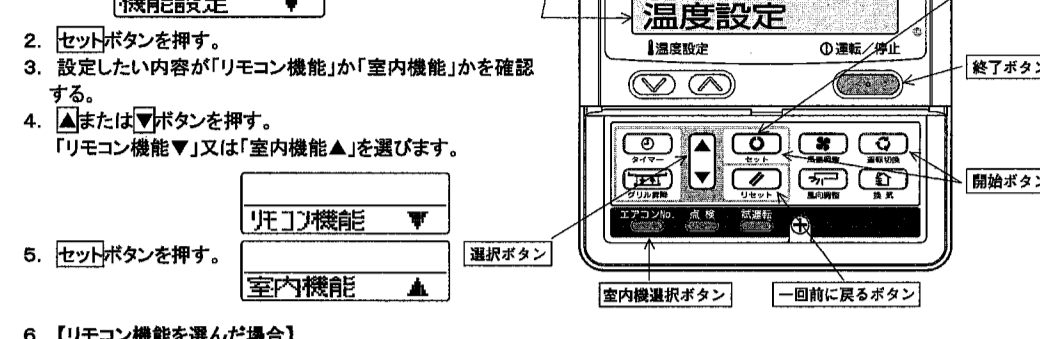
7 故障診断方法

異常発生時の運転データを記録し、リモコンから異常運転データの確認ができます。
【操作手順】
1. 記録 ボタンを押します。表示が「運転データ記録▼」になります。
2. 「記録▼」を一度押し、「エラーデータ表示」に切替えます。
3. 「セツト」ボタンを押すと、異常運転データ表示モードに入ります。
4. リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は、以下の表示となります。
① 異常履歴がある場合 エラーコードと「データ確認中」を表示します。
【例】「E8」(エラーコード) 「データ確認中」(データを読み込む点滅表示) 続いて、01番のデータが表示されます。
続へお進みください。
② 異常履歴がない場合 「異常なし」を3秒間表示し、本モードを終了します。
5. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は、以下の表示となります。
① 異常履歴がある場合: 接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。
【例】「E8」 「内000▲」(点滅) ② 異常履歴がない場合: アドレス番号表示のみとなります。
6. ▲▼ ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
7. 「セツト」により確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。)

設定の途中で、「リセット」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。
●異常運転データの確認は、リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

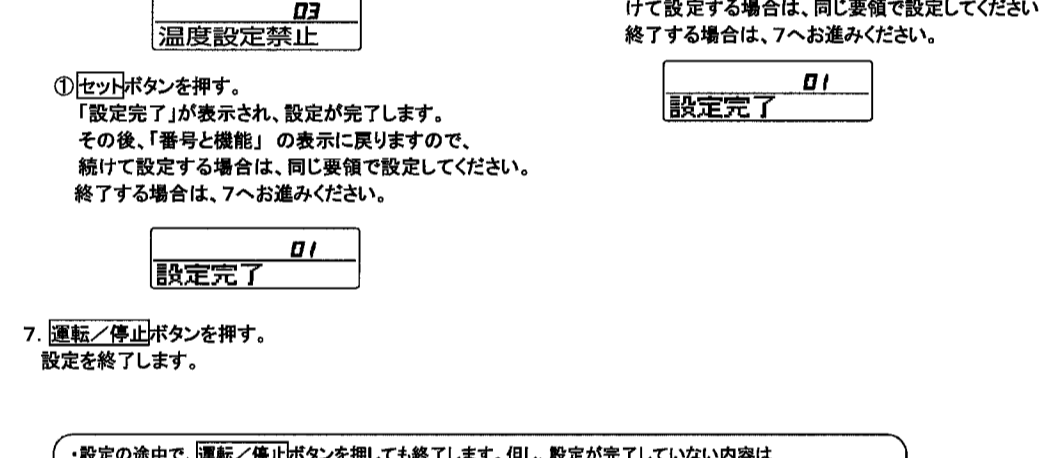
PAA012D011

機能設定の仕方
1. エアコンを停止させて、「セツト」と「運転切替」ボタンを同時に長押しする。表示が「機能設定▼」となります。
2. 「セツト」ボタンを押す。
3. 設定したい内容が「リモコン機能」か「室内機能」かを確認する。
4. ▲または▼ボタンを押す。「リモコン機能▼」又は「室内機能▲」を選びます。
5. 「セツト」ボタンを押す。



リモコン機能を選んで場合
① 「データ確認中」(約2秒間点滅表示)
② 「01」が表示され、「冷房昇降設定」と表示が切りかわります。
③ ▲または▼ボタンを押す。リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。
④ ▲または▼ボタンを押す。選択した機能の、現在の設定が表示されます。(例)「温度設定有効」→「03 温度設定」を選択した場合。
⑤ ▲または▼ボタンを押す。設定を選びます。
⑥ 「セツト」ボタンを押す。「設定完了」が表示され、設定が完了します。その後、「番号と機能」の表示に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、7へお進みください。

室内機能を選んで場合
① 「データ確認中」(データを読み込む約2~3秒点滅) ① 「お掃除自動」と表示が切りかわります。
② ▲または▼ボタンを押す。室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。(例)
③ ▲または▼ボタンを押す。選択した機能の、現在の設定が表示されます。(例)「表示なし」→「03 フィルターサイン設定」を選択した場合。
④ ▲または▼ボタンを押す。設定を選びます。
⑤ 「セツト」ボタンを押す。「設定完了」が表示され、設定が完了します。その後、「番号と機能」の表示に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、7へお進みください。



設定の途中で、「リセット」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。
●異常運転データの確認は、リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)